

## 026 イエスと洗礼者(バプテスマ)のヨハネ

ヨハネによる福音書 3 : 22~4 : 4

### ▶イエスと洗礼者ヨハネ (ヨハネによる福音書 3 : 22~30)

22 その後、イエスは弟子たちと (エルサレムを離れ) ユダヤ地方 (の田舎、荒野) ○に行つて、そこに一緒に滞在し、洗礼を授けておられた。

23 他方、ヨハネは、サリムの近くのアイノン○で洗礼を授けていた。そこは水が豊かであったからである (→乾季になるとヨルダン川の水かさが減る、浸礼のバプテスマを授けるため)。人々は来て、洗礼を受けていた。

24 ヨハネはまだ投獄されていなかったのである (→ヨハネは共観福音書の情報を前提に記している→マタイ 14 : 1~12、マルコ 6 : 14~29)。

25 ところがヨハネの弟子たちと、あるユダヤ人 (→数人となっている写本もある) との間で、清めのことで論争が起こった。

26 彼らはヨハネのもとに来て言った。「ラビ (→先生)、ヨルダン川の向こう側であなたと一緒にいた人、あなたが証しされたあの方が、洗礼を授けています (→下線部分: バプテスマのヨハネの弟子たちの嫉妬的な表現)。みんながあの方へ行っています。」

27 ヨハネは答えて言った。「天から与えられなければ、人は何も受けることができない。

28 わたしは、『自分はメシア (→ヘブライ語「マシアハ」で油注がれた者の意味で、特別に選ばれた者であること、また神の力がその人に臨むしるしでもある) ではない』と言い、『自分はその方の前に遣わされた者だ』と言ったが、そのことについては、あなたたち自身が証ししてくれる。

29 花嫁を迎えるのは花婿だ。花婿の介添え人はそばに立って耳を傾け、花婿の声が聞こえると大いに喜ぶ。だから、わたしは喜びで満たされている。あの方は栄え、わたしは衰えねばならない。」

### ▶上から来られる方 (福音記者ヨハネの解説、ヨハネによる福音書 3 : 31~36)

31 「上 (=天) から来られる方 (→イエスこそがイスラエルを治めるために神が選んだ者である) は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地に属する者として語る。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。

32 この方は、見たこと、聞いたことを証しされるが、だれもその証しを受け入れない。33 その証しを受け入れる者は、神が真実であることを確認したことになる。34 神がお遣わしになった方 (=イエス) は、神の言葉を話される。神が“霊”を限りなくお与えになるからである。35 御父は御子を愛して、その手にすべてをゆだねられた。36 御子を信じる人は永遠の命を得ているが、御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまる。」

### ヨハネによる福音書 4 : 1~4

01 さて、イエスがヨハネよりも多くの弟子をつくり、洗礼を授けておられるということが、ファリサイ派 (→BC163~60年のハスモン王朝時代に形成され、特に安息日や断食、施しを行うこと、宗教的な清めを強調し、律法学者の多くがこの派に属した) の人々の耳に入った。イエスはそれを知ると、02——洗礼を授けていたのは、イエス御自身ではなく、弟子たちである——03 ユダヤを去り、再びガリラヤへ行かれた。04 しかし、サマリア□を通らねばならなかった (→地理的要請ではなく、神からの霊的要請)。

